

「ありがとう」に応えるために。

四條畷消防署田原分署 救急隊
消防士長 榎本 敬忠（平成24年入職）

「辛い経験の中で見た光」

大きな揺れ、鳴り響く地鳴り、家具は倒れガラスが割れる音。

私は幼い頃に阪神淡路大震災を経験しました。子供ながらにただ事ではないことを自覚し恐怖したことを、今でも鮮明に覚えています。ライフラインは途絶され、不安で不便な日々が続く中、消防車で水を配りに来た消防団の方の姿に憧れ、消防という仕事に興味を持ちました。

高校卒業後、救急救命士の資格を取ることが出来る専門学校に通っていました。教員や知り合いから当消防本部には卒業生が数多く在籍しており、その先輩方は非常に評判がよく努力家であると聞き、そんな憧れの先輩方と一緒に仕事がしたいと思い当時の大東市消防本部を受験しました。



魔法の言葉

現在、救急隊員として救急車に乗車しています。救急現場で苦しんでいる患者さんのために精一杯の処置を行った時、患者さんやその家族から「ありがとう」と言われることがあります。私にとって魔法の言葉です。とても喜ばしく、また励みになる言葉です。

感謝の気持ちを忘れず、その気持ちに応えられる人間でいようと思い、日々救急車に乗っています。

「ともに成長できる職場」

大東四條畷消防組合は職員数190人の小規模な組織ですが、だからこそ大規模消防にはできないことがたくさんあります。上司・同僚との密なコミュニケーション、チームワーク、団結力。心底「一致団結」の意味を理解できる職場です。

最初から何でもできる人なんていません。支え合って、努力し合って皆で成長しています。熱い気持ちがあれば十分です。一緒に成長していきましょう。

